

< 単一原子に関しての実験 >

概要 (シュツットガルト大学)

シュツットガルト大学は、ダイヤモンドの炭素原子を一度に1つずつ窒素原子に置き換える実験のために、Spectrum社の任意波形発生器を使用。この素子は、原子レベルの磁場検出器や量子コンピュータのQbit《量子力学的な状態を利用することで0と1のほか、それらの重ね合わせの状態もとりうる情報素子》などのアプリケーションに応用できる。

また、NV欠陥中心は、原子サイズの磁場センサーとして使用できるナノスケールの核磁気共鳴(NMR)デバイスであり、例えば、ハードディスクドライブ上の小さな読み取り/書き込みヘッドの磁場強度を測定しての特性評価にも応用可能。ナノスケールのNMRは、通常のサイズのNMRとは異なり、これらの小さなサンプルを測定するために数回のスピンしか必要としないため、単一のタンパク質または薄膜の構造解析にも使用可能。

https://spectrum-instrumentation.com/applications/case_studies/CS_AWG_used_atomic_experiment_Stuttgart_University.php

主な仕様・特長

generatorNETBOX DN2.663-04

1.25 GS / s、16ビット、4アナログ出力、6デジタル出力

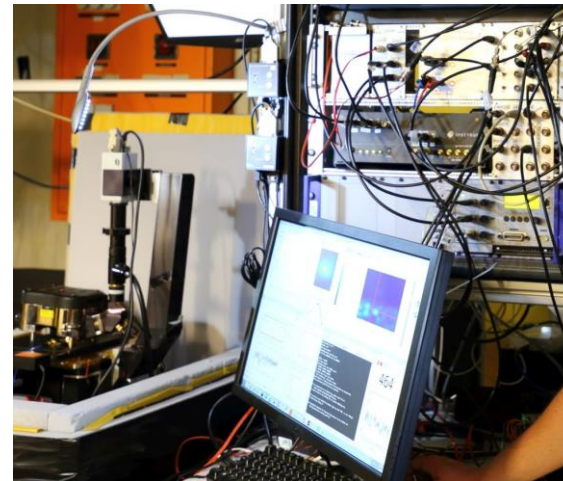
<用途>

レーザ、IQ変調を使用したマイクロ波信号、無線周波数パルスの生成、およびスピン状態を決定するためのデータ収集デバイスのトリガ制御用。

これには、10~20nsecまでの非常に短いパルスが必要

- ・このAWGの使用により、800ピコ秒という非常に高い時間分解能でこれらを制御可能
- ・多チャンネル出力、効果的に実験全体を実行可能

実験装置の外観



DN2.663-04

